

「全カリ」といわれても、世間一般では何のことだか分からないだろう。しかしながら本学内では、一般教育部以来、半世紀以上続く教養教育の体現として明確に位置付けている。2017年は「全学共通カリキュラム」が1997年に始まってから20年の節目。折しも2008年6月～2017年5月まで全学共通カリキュラム事務室に在籍し、9年間お世話になった全カリについて、その今昔を私の視点で紹介してみようと思う。

本学では一般教育部を1955年に設置、半世紀近くその役割を担った。その後、大学設置基準の大綱化を受け、全学の教養教育を担う組織体として「全学共通カリキュラム運営センター」が1994年12月に発足。言語教育科目と総合教育科目から成るカリキュラム、「全学共通カリキュラム」は1997年4月にスタートした。その後、全カリ第2ステージの改革で、2010年度に言語、2012年度に総合がそれぞれ改編。そして2016年度、大学全体の学士課程教育の改革(RIKKYO Learning Style)に呼応した教育革新として全カリ第3ステージを迎える。第3ステージではカリキュラムを「全学共通科目」、その運営組織を「全学共通カリキュラム運営センター」と切り分けて称し、約20年にわたりカリキュラムと運営組織の双方を指していた「全学共通カリキュラム」の位置付けと役割が転換点を迎えた。RIKKYO Learning Styleでは、主に学部のディシプリンに代表する専門教育科目、全カリが担う全学共通科目(教養教育)という、カリキュラム上のすみ分けを学生は意識することが少ないよう留意。専門と教養を統合的に履修できる仕掛けを肝としている。学びの段階に応じた、導入期、形成期、完成期にそれぞれ履修できる科目が定められ、これに沿って学生は学びを段階的に深めてゆく。従って学生は、2015年度まで独立的に存在した全学共通カリキュラムとは意味合いの異なる全学共通科目を、どこ(全カリ)が提供(運営)しているという認識を強く持つことなく学士課程4年間の学びとして修めることになる。

さて、全カリ第3ステージでの改革やRIKKYO Learning Styleとしての全カリについては別の稿に委ねるとして、ここ10年余りの全カリにまつわる変遷と私の関わりを振り返ってみる。2008年6月、全学共通カリキュラム事務室(以下、全カリ事務室)に人事異動で着任。2010年度に向けた英語ディスカッション導入について全学的な議論の高まりを目の当たりにする。2008年度は当時の全カリ運営体制(旧体制)の最終年度であり、(全カリ)運営委員会を上位とした言語教育科目構想小委員会(言語部会)、ならびに総合教育科目構想小委員会(総合部会)によって活動。総合部会では、今はなき5つの教育研究室が存在。人文学、社会科学、自然科学、情報科学、スポーツ人間科学の教育

研究室それぞれによる自主的活動が懐かしい。私は異動時から9年間、総合担当として奉職。2008年度に最後の総合部会長を務められたのは理学部の山田裕二先生であった。2009年4月、新たな全カリ運営体制（新体制）がスタート。全カリ委員会を上位とした言語教育科目構想・運営チーム、ならびに総合教育科目構想・運営チームに一新、総合では教育研究室に代わりサポートグループという実体性の薄い領域別の緩やかなネットワークが用意された。2009年度に新体制として最初の総合チームリーダーを務められたのは文学部の西原廉太先生であった。2010、2011年度は、2012年度に向けた総合のカリキュラム改編に尽力。特に2010年度は年間を通して毎週ミーティングを招集、30回に及ぶ会議体で新たなカリキュラムの構想を具現化した。チームで議論を主導する教員、それをサポートする職員とのコンビネーションは、まさに熱気に満ちた現場。その後、2年にわたりチームリーダーを務められたのは文学部の平野隆文先生であった。2012年4月、総合教育科目は全カリ第2ステージとして新たな段階を迎える。立教科目群「立教A」「立教B（立教ゼミナール）」、領域別科目群「領域別A（講義系）」「領域別B（文献系）」、主題別科目群「主題別A」「主題別B」、スポーツ実習科目群「スポーツスタディ」「スポーツプログラム」、4つのカテゴリに大別されたカリキュラムが特徴。領域別科目群では、学部の専門に代表されるディシプリンを他学部生に垣間見てもらうことを企図したコンセプトを持ち、その後の学士課程統合カリキュラムへの布石ともいえる試みが特筆に値する。カリキュラムの検証と改善を施しつつ、4年後の2016年度に向けた全カリ第3ステージとしてのカリキュラム改編に着手したのは2015年度。学士課程統合カリキュラム（RIKKYO Learning Style）の考え方に基づいたカリキュラム改編は、理念の整合性と新たな全カリへのチャレンジでもあり、精度の高いカリキュラムとしてまとめるハードルは低くなかった。2012～2015年度の4年間にわたりチームリーダーを務められたのは経済学部の中島俊克先生であった。2016年4月、全カリ第3ステージがスタート。新しく誕生した全学共通科目では言語系科目と総合系科目に呼称が変わり、総合では「学びの精神」、「多彩な学び」、「スポーツ実習」、3つのカテゴリに大別された。学びの精神は導入期、多彩な学びは形成期、スポーツ実習は全期、それぞれの期以降に履修可能なカリキュラムが特徴。新たなカリキュラムの検証と改善を施しつつ、またRIKKYO Learning Styleのコンセプトに適う精度の高いカリキュラムとすべくFDに力を入れる時期を迎えている。2016年度、そして私が全カリを離れた2017年5月までお世話になったチームリーダーは理学部の松山伸一先生（現在に至る）であった。

9年間、全カリ事務室から見てきた「全カリ」。集う教職員の熱意と志、そして使命によって、カリキュラムであり、運営組織であり、教育革新の運動体でもある全カリは、保たれているといえよう。このような変遷を含めておよそ20年の歴史を持つ全カリは、2016年4月、既述のように全カリ第3ステージとして新たな位置付けと役割を迎えている。2012年度、2016年度、それぞれの新カリキュラムの改革に携われたことは、私にとって代えがたい経験となった。全カリに集う多くの教員、職員による連携、教育研

究にイニシアティブを発揮する教員、それをサポートしつつカリキュラムとして立体化するために東奔西走する職員、いわゆる教職協働のひとつの現場に立ち会わせていただいた。関わりを持った多くの方々にあらためて感謝を申し上げたい。そして、半世紀以上にわたる本学の教養教育、そしてリベラルエデュケーションの更なら実現に向けて、全カ力を離れた立場として、しかし「全カ力は全学で支える」という理念を大切に、これからも関心を持ってゆきたいと思う。

ふじの ゆうすけ